

## 第4章 アンケート調査結果から見た高齢者の現況

第5期計画策定にあたり、現在の健康状態・日常生活の状況や高齢者福祉事業・介護保険事業に対する市民の意見・要望などを把握することを目的にアンケート調査を実施しました。

### 第1節 調査の概要

#### 1 調査方法

調査の対象	①介護保険居宅サービスを利用している方を742人抽出。 ②上記以外の65歳以上の高齢者の方を無作為に1,000人抽出。 ③吉川市内の居宅サービス利用者を担当している介護支援専門員40人を抽出。
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	平成23年3月4日～3月31日

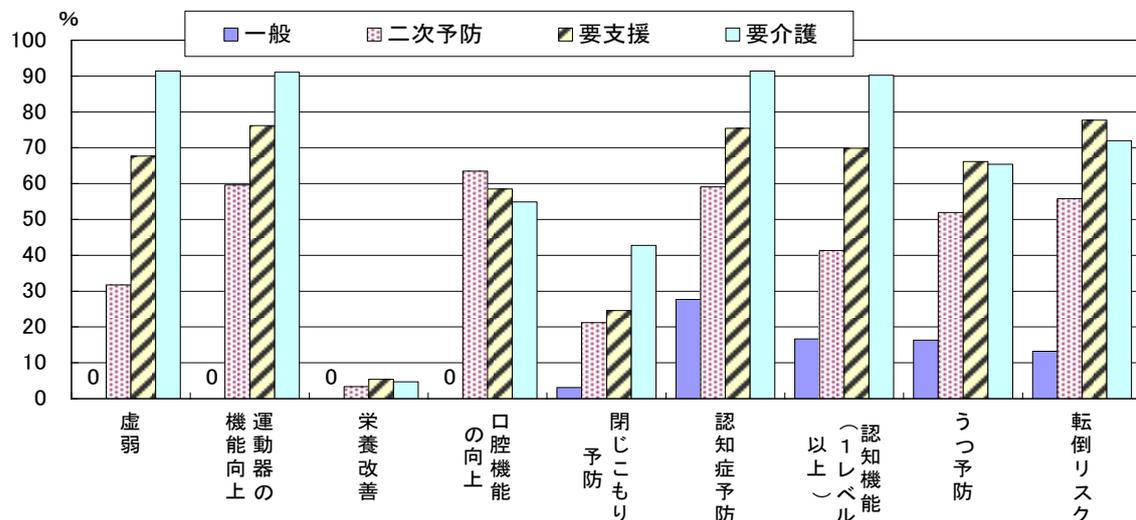
#### 2 回収状況

種類	配布数	回収数	回収率
①居宅サービス利用者	742票	417票	56.2%
②65歳以上の高齢者	1,000票	626票	62.6%
③介護支援専門員	40票	20票	50.0%

#### 3 生活機能判定項目ごとの集計結果

本調査における調査票には、「生活機能評価の基本チェックリスト」をはじめ、高齢者の生活機能などの状況を判定する設問を含んでいます。居宅サービス利用者・65歳以上の調査における回答を一体的に再集計した生活機能判定項目ごとの集計結果は以下のとおりです。

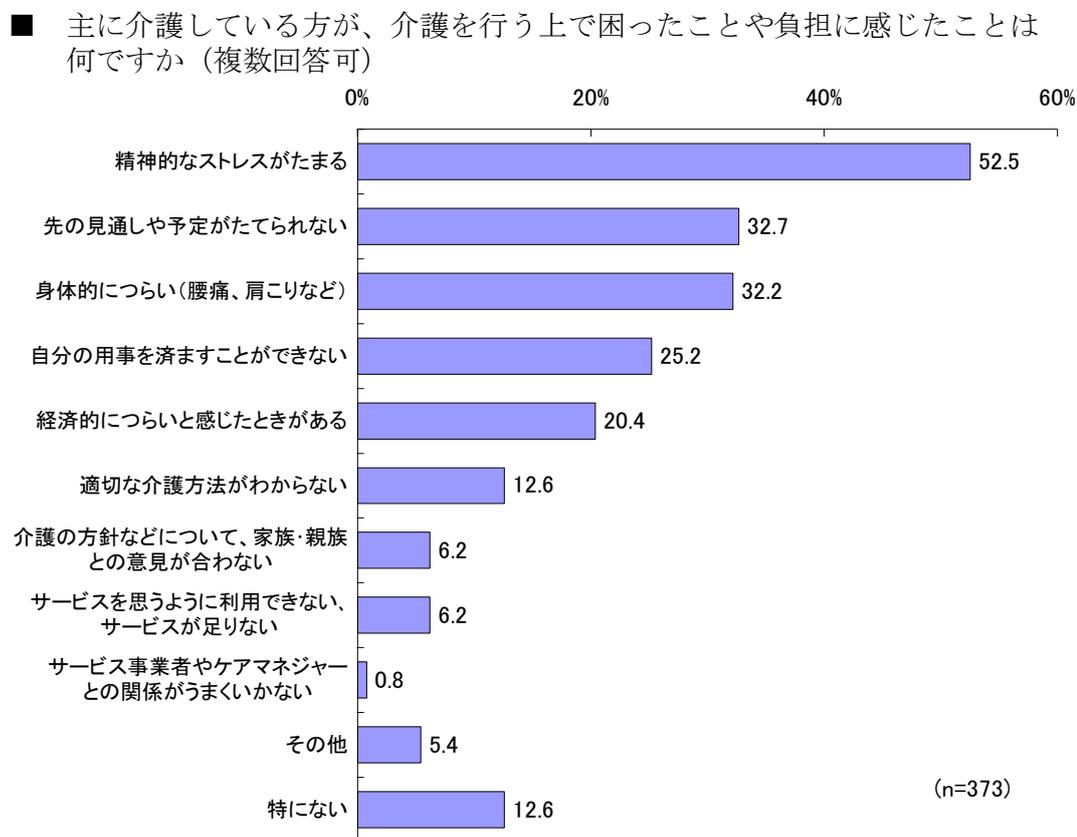
##### ■基本チェックリストに基づく生活機能判定項目ごとの該当者割合



## 第2節 調査結果からの課題と解決の方向性

### (1) 世帯や介護者の状況

- 居宅サービス利用者の3割、65歳以上高齢者の5割近くが「ひとり暮らし」または「高齢夫婦のみ世帯」である。【居宅サービス利用者調査・65歳以上の高齢者調査】
- 介護者の年齢は60歳以上が全体の6割、そのうち70歳以上が半数以上となっており、世帯の高齢化に伴い高齢者が高齢者を介護する老老介護の現状が顕在化している。【居宅サービス利用者調査】
- 介護を行う上で困ったことや負担に感じたことは、「精神的なストレスがたまる」が5割強、「先の見通しや予定がたてられない」、「身体的につらい（腰痛、肩こりなど）」がともに3割強、「自分の用事を済ますことができない」が2割台半ばなどである。【居宅サービス利用者調査】



#### 解決の方向性

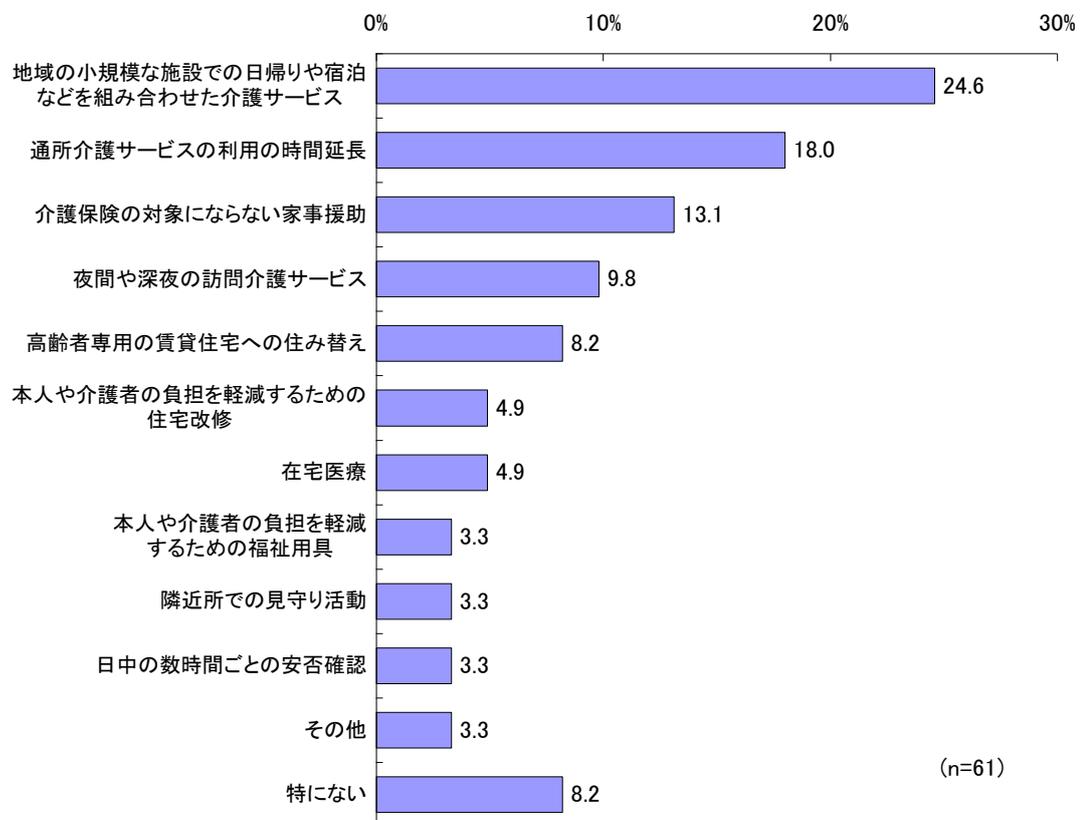
ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加など、世帯の高齢化に伴う老老介護などに対応した支援が必要である。

①介護が必要になっても「自宅介護」の希望が多い

○「できるかぎり自宅（家族）で一緒に過ごしたい」「本人が施設入所を希望していない」などの理由から、「施設への入所（入院）の意向はない」とする方の割合は5割弱である。  
【居宅サービス利用者調査】

○自宅で介護を続けるとした場合、現在不足しているサービスとしては、「地域の小規模な施設での日帰りや宿泊などを組み合わせた介護サービス」が2割台半ば、「通所介護サービスの利用の時間延長」が2割弱、「介護保険の対象にならない家事援助」が1割強などが挙げられている。【居宅サービス利用者調査】

■（介護保険施設などに入所（入居）の申し込みをしている回答者限定設問）  
仮に、施設入所を希望しないで居宅で介護を続けるとした場合、現在不足しているサービスはどのようなサービスですか（複数回答可）



解決の方向性

家族介護者が一時的に介護から離れ息抜きすることや、介護者の状態を含めた介護サービスの柔軟な供給、家事援助サービスによる介護負担の軽減など、在宅介護を支援する施策の充実が必要である。

また、地域医療、隣近所で見守る仕組みなど、在宅介護を支える体制の充実に取り組む必要がある。

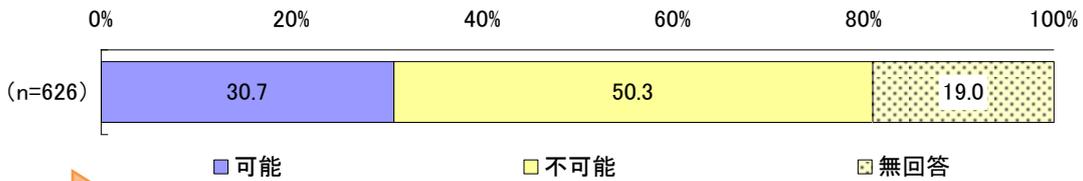
## ②介護度が重くなった時は施設入所の希望が多い

○いずれかの施設入所（入院）の申込みをしている人は3割である。【居宅サービス利用者調査】

○介護者自身が将来介護が必要になった場合、自宅で家族介護や介護保険などの公的なサービスを利用しながら暮らしたいという意向が介護度が軽いときは6割弱に対し、介護度が重くなったときは2割強、「特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」が3割台半ばである。【居宅サービス利用者調査】

○自分が寝たきりになった時の自宅での介護は「可能」が3割、「不可能」が5割である。【65歳以上の高齢者調査】

### ■ あなたが万が一寝たきりとなった時、自宅での介護は可能ですか



#### 解決の方向性

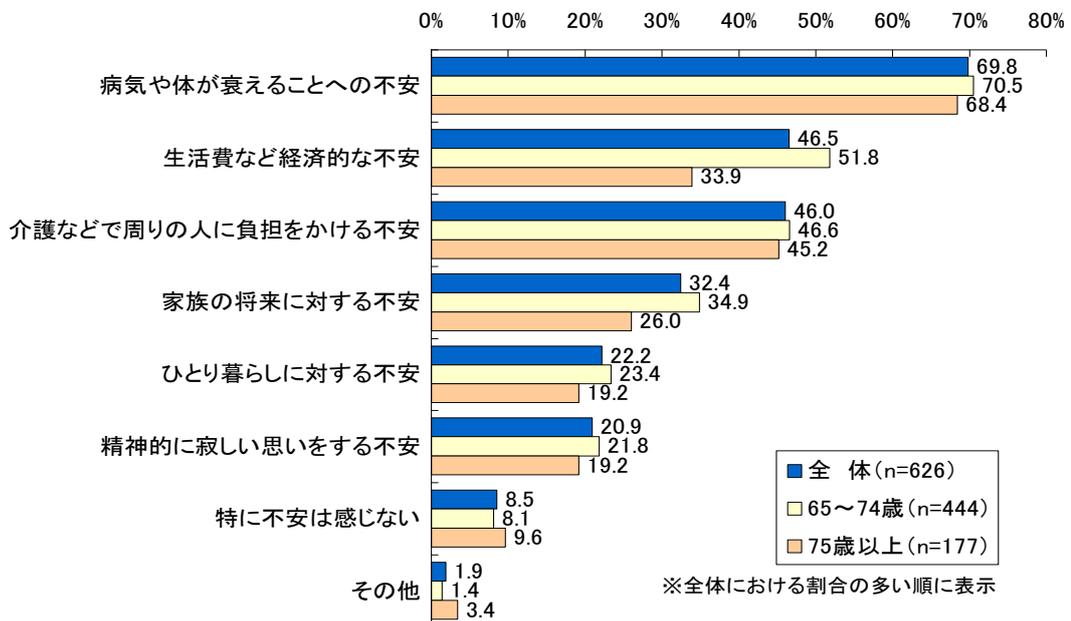
在宅介護の希望が多い反面、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、重度者など施設入所を希望する方が今後増加することを考慮し、利用者のニーズを把握した上で、施設整備の検討が必要である。

## (2) 介護予防の意識向上

○介護・介助が必要になったきっかけは、「脳卒中」が3割、「認知症」、「加齢による衰弱」がともに2割台半ばである。【居宅サービス利用者調査】

○これからの生活の中で「病気や体が衰えることへの不安」を感じている人は7割である。【65歳以上の高齢者調査】

### ■ これからの生活の中で特に不安を感じるのはどんなことですか（複数回答可）



- 健康を維持するために心がけていることとして「定期的に健康診断を受けている」人は6割である。【65歳以上の高齢者調査】
- 介護予防事業の認知度は3割。今後の参加意向においても「興味がない」が2割であり、関心度は低い。【65歳以上の高齢者調査】
- いきいき運動教室を知っているが参加していない理由として、全体では「時間が合わない」が3割。75歳以上では「会場まで行くことができない」が2割強や「興味がない」が2割となっている。【65歳以上の高齢者調査】
- 吉川市が実施している介護予防の各プログラムの参加希望は「運動器の機能向上教室」や「認知症予防・支援」が上位に挙げられている。【65歳以上の高齢者調査】

**解決の方向性**

介護予防事業への関心度は低く、参加に消極的な方が多い。  
 今後は、介護予防の意識向上や身近な地域での事業開催、吉川市の健康づくり事業との連携やいきいき運動教室や認知症予防など市民の関心の高い事業を足がかりとした介護予防事業の推進が重要である。  
 また、介護予防事業への参加希望のない人の参加促進を図るため、身近な地域での開催や外出支援など、新たな事業展開の検討も必要である。

**(3) 介護保険制度やサービス利用について**

- 介護保険制度全般に対する満足度は、「おおむね満足できる制度である」と「どちらかと言えば満足できる制度である」の合計は6割、「どちらかと言えば満足できる制度ではない」と「ほとんど満足できる制度ではない」の合計は2割強である。【居宅サービス利用者調査】
- 満足できない理由は、「介護保険制度が分かりにくい」が4割台半ば、「利用したいサービスの回数や時間が決まっているから」が4割弱、「サービスを利用した時の自己負担額が高い」が3割である。【居宅サービス利用者調査】
- 介護保険サービスは、「(どちらかと言えば) 利用しやすい」が6割、「(どちらかと言えば) 利用しにくい」が1割強である。【居宅サービス利用者調査】
- 利用がしにくい理由は、「利用したいサービスが利用できないから」、「苦情などが言いにくいから」、「利用手続きが面倒だから」、「利用者負担を重く感じるから」などが、いずれも3割台である。【居宅サービス利用者調査】
- 介護保険サービスと介護保険料の関係については、「サービスの種類や量（施設など）は今のままでよいので、保険料はなるべく上げないでほしい」が最も高く、居宅サービス利用者で5割台半ば、65歳以上高齢者で4割弱である。【居宅サービス利用者調査・65歳以上の高齢者調査】

**解決の方向性**

介護保険制度全般、サービス利用ともに満足度はおおむね高い。ただし、一定の不満もみられる。  
 引き続き、制度の仕組みの周知、気軽に相談できる体制の充実などが必要である。